

# 梶山女学園 歴史文化館ニュース

Vol.24

2021.11.10

## 歴史文化館に新しい展示コーナーが誕生しました

歴史文化館館長 梶山美恵子

2021年春、歴史文化館に新たなコーナーを新設しました。「大学史コーナー」と「裁縫雛形保存・展示コーナー」です。それぞれ特徴ある展示コーナーになりました。

これまでの三つの展示室（歴史展示室・正式記念室・文化展示室）がありましたが、新しいコーナーは従来の文化展示室の中を分けて三つのコーナー（企画展示コーナー・大学史コーナー・裁縫雛形保存・展示コーナー）にしたものです。スペースは大きくありませんが、内容はぎっしり詰まっています。ぜひご来館ください。

### ■大学史コーナー

—女性の活躍を期して—

このコーナーは、大学の歴史を辿りながらそれぞれの時代に生きた学生たちの姿に思いを馳せ、現在を見つめ、未来を考える場です。

それぞれの時代には、それぞれの問題や困難がありました。その中で学生たちは学び、友と語らい、さまざまな活動に取り組み、時には苦しみ、時には喜びあいながらこの学園で学生生活を送ってきました。

学園の創設者夫妻は、女性が家の外に出て“職業婦人”となることを評価しなかった時代にあっても女性の職業を奨励しました。明治38年に裁縫女学校から始まった学園は、昭和5（1930）年「梶山女子専門学校」を開設し、それは戦後「梶山女学園大学家政学部」として我が国最初の家政学部となり、その卒業生は、愛知県立高校の家庭科教員の大半が梶山出身者で占められるなど、社会で活躍してきました。

昭和44（1969）年には短期大学部が開設され平成13（2001）年まで存続し、優秀な人材を世に送って地域社会で評価され、“就職の梶山”の礎となりました。

昭和47（1972）年文学部が開設。昭和62（1987）年には我が国最初となる人間関係学部が開設。その後、家政学部は生活科学部に、短期大学部は文化情報学部、文学部は国際コミュニケーション学部生まれ変わり、現在までに現代マネジメント学部、教育学部、看護学部が開設され、7つの学部と4つの研究科を持つ大学となり、多くのすぐれた人材を社会に送り出しています。

卒業生はそれぞれの時代にさまざまな困難に出会いながら道を切り拓いてきました。しかし、今もまだ女性の前途には多くの困難があります。私たちはそれに負けることなく粘り強く一步一步前進していきたいものです。

「人間になろう」

人を大切にできる人間、人と協力できる人間、自ら頑張れる人間

一人ひとりの皆さんが先輩たちの歴史から元気と勇気を得て、未来に向けてこれから頑張ろうと思う。

このコーナーがそうした場になれば幸いです。



令和3年3月

大学史コーナー設置にあたって  
歴史文化館館長 梶山美恵子

## ■裁縫雛形保存・展示コーナー

裁縫雛形は、学園の教育の出発点である裁縫教育（明治から昭和初期）で生徒が制作した授業制作物です。学園創設者の梶山正氏が東京裁縫女学校（現在の東京家政大学）で裁縫教育のメソッドを学び、授業に取り入れました。制作当時、繊維製品は高価なものであったことから、実寸大の1/3の大きさで、多種類の衣服を制作し、実務経験を重ねました。

歴史文化館では500点余りの裁縫雛形が残されており、服装史資料や民俗資料としても大変貴重な資料であることから、約10年を費やして資料の分類と目録『梶山女学園 裁縫雛形コレクション』の作成を行いました。この分類に基づき、購入した18棹の桐ダンスに収納しました。

このコーナーでは、目録に示されている資料番号と引き出し番号を確認して、実物を見ることができるようになっています。



## コロナ禍での歴史文化館見学

例年、歴史文化館には前期（4月～7月末）に大学1年生全員が訪れ、学生は各部屋を巡ってワークシートに回答や感想を書き込み、授業の課題として提出します。

しかし、2020年度前期はコロナ禍で基本遠隔授業となり、歴史文化館の見学も中止となってしまいました。2021年度もコロナ禍ではありましたが、対面授業が再開された中、歴史文化館も見学を再開しました。

密を防ぐために、館内滞在時間は40分毎で最多20名までの事前予約制とし、また開館日を従来の水曜日・金曜日に加えて、臨時に木曜日午前中も学生の見学可能時間としました。なかには館内滞在時間40分では足りず、2度目の予約をしてワークシートを仕上げる熱心な学生も少なからずいました。

（今回の実施については大学の自校史教育担当の米田公則先生及び教務課の皆様、予約システム作成については現代マネジメント学部の三木邦弘先生のご協力によって実施することができました）



## 歴史文化館への質問にお答えします

Q. 太平洋戦争中の「金属類回収令」により軍部から金剛鐘の供出を迫られた時、免れることができたのはなぜですか？（梶山小学校の児童から）

A. 『学園50年を語る』（梶山女学園）の「楽器であることを理由に供出を免れた」の真偽について確認をしたということでした。供出を免れた理由について梶山正雄著『梶山女学園の教育変遷－[人間になろう]まで』（梶山女学園大学文学部人間科学研究会）には、金剛鐘の歌（「金剛石」）の作詞者が昭和天皇（明治天皇の皇后）であり、その歌を奏でる楽器であることを説明したことによるとされています。『梶山女学園75年史』や『梶山女学園100年史』（梶山女学園）にも同じ理由が記されています。軍部は、皇室関係を理由にされたため回収を断念したということになります。



金剛鐘

Q. （写真・バッジ）上の字はなんと書いてあるのですか？（梶山小学校の児童から）



梶山女学園大学のバッジ

A. 「大」という字です。「大」は人が両手と両足を広げ、正面を向いて立っている形からきています。「大」は篆書（てんしよ）ではバッジのような字になります。

参考までに以下の本を小学校の自校史担当の先生にお伝えしました。

『五体篆書字典』小林石寿篇 木耳社刊

『篆隸大字典』赤井清美編 東京堂出版

（本の紹介は旧教職員の太田希久夫氏にご協力をいただきました）

Q. 梶山女学園の創立記念日はなぜ6月1日になったのですか？（教職員から）

A. 『糸菊』などの資料から経過を見てみましょう。

梶山女学園の前身「名古屋裁縫女学校」は武家屋敷を借りて明治38年4月に開校されました。この時生徒は90名でしたが、その後続々と増え、明治39年6月、初めての自前の建築として85坪の増築が完成しました。この頃の生徒数は250名。同年6月17日には、各界著名人60人を超える来賓を迎え、対外的に正式な式典として開校式が行われました。

大正4年には3月に創立10周年記念式が行われ、同年6月1日には「開校記念式」が行われました。

昭和21年、戦後になって初めて、6月1日に「創立記念式」が行われました。昭和の後半まで、全校生徒・教職員が出席する式典が行われていましたが、その後6月1日は「記念日」として休日となり現在に至っています。

# 企画展「日本の美 絵巻・絵本と染色型紙」を開催しています

歴史文化館では、企画展「日本の美 絵巻・絵本と染色型紙」を開催しています。国際コミュニケーション学部の伊藤信博教授が中心となって企画しました。

室町～江戸時代に描かれた絵巻や奈良絵本、同時に近代を中心とした染色型紙の展示を行っています。

染色型紙は明治以降に西欧で高く評価された日本の「美」の象徴である着物のデザインです。双方を比較し、各時代の「美」とは何かをこの機会に考えてみませんか。

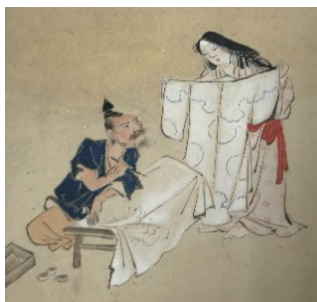
【開催期間】：2021年 9月29日（水）～  
2021年12月17日（金）

【開催時間】：毎週水曜・金曜日 10:00～17:00



歴史文化館における展示会は「2021年度学園研究費A」の助成による「名古屋造形大学所蔵石井染織所染織型紙研究と型紙限定によるジャポニズム発展研究」により実行されました。その展示会のタイトルは「日本の美 絵巻・絵本と染色型紙」です。

名古屋造形大学が所蔵する旧石井染織所の染織型紙二万点以上のうち、江戸後期から大正時代にかけての15作品を選び展示を行っています。



さらに「絵巻・絵本」は慶応大学教授が所蔵する絵巻、奈良絵本そして奈良絵本断簡（伊勢物語、源氏物語）など個人蔵10点を展示しています。これらの作品は室町後期から江戸初期に作られた作品で、日本における「美」とは何かを再考するために、かなりの美品を用意しました。

それ以外には、海北友雪が描いた「職人尽絵」から、着物に絵を描く職人を描いた江戸初期の作品や江戸初期の染織文様を集めた本を展示し、展示会全体を構成しました。今後も、室町、江戸初期の様々な「日本の美」の展示の企画に挑戦していきたいと思います。（伊藤信博教授）

## 【寄贈品紹介】

- 裁縫道具箱（名古屋裁縫女学校名入）（加藤奈美江氏寄贈）
- 書籍「インドの伝統染色」、「INDIAN WEAVING」、  
「インドの染色美術」（水谷静子元中高教諭遺品）（水谷蕤氏寄贈）
- 家政学部食物学科時代の調理実習等に関する資料（加賀谷みえ子氏寄贈）



裁縫道具箱

## 【編集後記】

皆さん、歴史文化館に新しくできた展示コーナーで梶山の歴史を学んでみませんか？

9月からは企画展【日本の美 絵巻・絵本と染色型紙】を開催しています。貴重な資料が展示されていますので、多くの方に足を運んでいただければ幸いです。

### 梶山女学園 歴史文化館ニュース 第24号

発行日 2021年（令和3年）11月10日

編集者・発行 梶山女学園歴史文化館  
名古屋千種区星が丘元町17番3号  
TEL 052 (781) 1186 (代)  
052 (781) 4590 (直)

編集担当者 梶山美恵子 村瀬輝恭 阿部亮子 加藤小百合